

明海大学不動産学部

# 不動産の不思議

第270回

学生たちの視点と発見

## 【学生の目】

私が好きなゲームの一つに「Mine Craft（マインクラフト）」がある。自身で材料を探索し、建築するゲームで、すべての建材が立方体のブロックできている点に特徴がある。初心者が何の工夫もしないで造った家はただの大きな四角い箱になり、「豆腐建築」と揶揄される。

## キューブ型ハウス

根で庇がなく、色も白いこの家は、まさしく豆腐を彷彿とさせた。最近では陸屋根の家を見かけることもあるので少し調べると、「キューブ型ハウス」という名称で、現在人気のデザインということが分かった。

このデザインが選ばれる理由は第1に、コストが安い。壁面の面積を最小限にできることに加え、陸屋根は材料も手間も掛からない。第2に、デッドスペースがなくなる。土

の形を工夫したりすればおしゃれなデザインになりうるし、デメリットである屋根に降る雨の音や壁の劣化も相応の対策で防げる。

もっとも、建てる際にひと工夫するのがよいのではないだろうか。住宅地の景観は、屋根の形に統一感のあるほうが美しく見える。かといって、キューブ型ハウスがずらりと並び街並みが美しいとはいえない。

写真の住宅は寄棟の家の隣にあり、隣家のガレージのようにも見えらる。そこで、キューブ型ハウスを隣の家と補完するデザインにすると、

## 隣家と補完させるデザインで存在感

先日驚愕したのは、実際にそうした「豆腐ハウス」を目にしたことである（写真）。祖母の家がある、おゆみ野周辺で見つけたものだ。陸屋

地が整形地の場合、四角い家が最も建てやすいし、柱の数も減らせるため家の中が広くなる。第3に、構造耐力上の安定性が高く、屋根が軽い

住宅の独立性と景観の多様性を実現できるのではないか。例えば、隣が白なら黒、茶色なら黒など色を考慮することで、市松模様やモノトーンの統一感のある街並みになる。キューブ型がもつ、どのような形とも組み合わせの面白さを演出できる特徴を利用するのだ。

昭和の建築家、宮脇檀はキューブハウスで一世を風靡した。卓越したデザイン力で平面と立面を律し、正方形や直方体が基調の力強い住宅に存在感がある。今にレビューするに

### 【教員のコメント】

は、周囲と補完、外構と連続するなど、一般化への工夫が必要だ。



朽方 勇祐  
不動産学部2年

なるほど、確かにキューブ型ハウスは特段悪い住宅というわけではない。キューブ型でも庇をつけたり窓

みに合わず、ぼつりとなる建物はや



シンプルで現代風デザインとして人気のキューブ型